

聖学院学術情報発信システムSERVEを 立ち上げて

聖学院大学総合図書館 菊池美紀

機関リポジトリは、多くの研究成果を持ち人材と予算に余裕のある大規模大学がやるもの、そう考えていた私たちがなぜリポジトリを立ち上げることになったのかについてご紹介します。

2007年度、本学は大学20周年を迎えました。これを記念した年史を発行するという話が出ましたが、結局立ち消えになりました。その理由のひとつに史資料の不足がありました。教授会等の議事録は保存されていましたが、事務文書や記録、写真などの保存はバラバラで、きちんとした収集・保存がなされていなかったのです。図書館がやるべき仕事だったのかもしれませんが、十分に役割を果たせていませんでした。では現在発行されている学内資料はどうか、という課題にもつきあたりました。実際、どのような学内資料が発行されているのか、それすら網羅的に把握している課はありませんでした。ですがこのことがすぐにリポジトリと結びついたわけではありません。なぜならリポジトリは研究成果を載せるべきものと考えていたからです。ただ研修会等でリポジトリの話聞くうちに、教育活動の資料や記録もまたリポジトリの収集対象として考えてよいのではないかと、そのように感じ始めていました。

そんなとき、情報システム課職員との打ち合わせの中でリポジトリの話題が出ました。そして情報システム課にはXoopsの経験があり、XoonIPsを利用するのであれば協力しても良いとの意見をいただきました。構築に可能性がでてきたのです。そんな矢先、2007年度の科学研究費の補助費の使い道について総務課から図書館に対して打診がありました。これはもうリポジトリを立ち上げるしかない…。一気にリポジトリは現実の問題となりました。

本学が目指すリポジトリの方向性（研究成果と教育活動成果の2つを柱とする）についてなどが決められ、総務課・情報システム課・図書館の3課による共同の事業としてリポジトリは動き出しました。業者による構築がなされ、名前を聖学院学術情報発信システムSERVE (SEigakuin Repository for academic archive) と名づけました。さらに翌年度にはCSI委託事業に応募、採択されました。この採択はとても大きな意義がありました。費用はもちろんですが、採択されたという事実が学内向けの広報や交渉を非常にやりやすくしてくれま

した。また費用の補助によりリポジトリをメインとする担当者を1名確保することもできました。

SERVEの構築・運用はこれからが本番です。現在やっと、紀要論文の遡及に手をつけたという状況です。これから各担当課と連携し、科研費の報告書や博士論文、研究所紀要、学内発行物などを把握し、収集し、SERVEへ収録していく…。大変な作業です。ですが、この事業をきっかけに各課と連携すること、図書館から各課へ働きかけていくことは私たちにとって大きな経験になると考えています。

もう1年リポジトリの予算が付く次期が遅かったなら、たぶん本学のリポジトリは違う形でスタートしたでしょう。地域リポジトリ SUCRA に参加し研究成果を中心に収集する。きっとその方が楽だったでしょう。ですが、試行錯誤しながら一から構築をすることで得たものもあります。なにより、本学の特徴である教育活動の成果（多くの行事やそれに関する資料等）を収録していくことが最初から予定でき、学外公開はためられるが学内者のみであれば公開できるという資料も収集していくことができました。今後は、少しずつ公開する資料を増やし、大学の情報を保存し、整理する仕組みとしてSERVEが学内で浸透していくことを目指したいと思っています。

SERVE URL <http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/>